

第2回さっぽろ医療計画評価委員会会議における主な意見等

1 委員の出欠状況

8人中6人出席（2名欠席）

2 主な意見

(1) さっぽろ医療計画 2018 の進捗状況について

- 事業 No.5「産婦人科救急情報オペレート事業」について、救急安心センターさっぽろと連携しているのか。
→産婦人科救急相談電話は救急安心センターさっぽろと同じ場所で行っており、連携して対応している。
- 事業 No.8「高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業」について、人材育成に管理栄養士は入っていないのか。また、訪問看護の研修等について、広報さっぽろによる広報ができなくなつてから参加者が減っている。戸別配布のものが一番目に届くのではないかと考えているが、広報の体制について再度検討してほしい。
→今後検討していきたい。
- 看護師はすごく不足している状況だが、決まった就労時間ではなく、フレキシブルな就労体制にすると復職を希望する方が増えるのではないかと。
→各医療機関において、食事の介助の時間だけの勤務や入浴の介助だけの勤務など、さまざまな形態の働き方を導入している。現在 60 歳から 65 歳以上の看護師をどう活用するかということ取組みを始めている。
- ACP や人生会議という概念を広めるため、行政が主導して取組みを進めてほしい。また、医療政策の問題だけではないため、ほかの関連分野の関係者と連携して対応していかなければならないのではないかと。
→今後検討していきたい。
- 事業 No.10「医療機関における防災体制の強化支援」について、非常用電源設備設置等補助の対象医療機関等は。また、衛星携帯電話の設置は決まっているのか。
→補助の具体的な内容は現在検討中である。衛星携帯電話は災害時基幹病院 16 か所、札幌市医師会館、札幌市保健所の計 18 か所に設置する予定。
- 事業 No.12「災害時重要管路耐震化事業」について、令和元年度実施内容で医療機関 8 か所及び指定避難所（基幹）6 か所へ向かう供給ルートの耐震化を完了予定とあるが、具体的にどのような計画で進捗はどうなっているか。
→具体的な医療機関名は公表できないが、進捗については、次回の会議で報告する。
- 事業 No.19「潜在看護職復職支援講習会」について、北海道内に潜在看護師は何名程度いるのか。
→5万人程度いるのではないかと推測される。

- 事業 No.34「医療情報ポータルサイトの構築」について、栄養ケア・ステーションの取り組みなどを項目としていれてもらいたい。
→現在作成中であるが、項目としていれることとする。
- 成果目標のうち、在宅医療について、医療機関数の実数を正確に算出し、目標値を定めてほしい。
→国や北海道が示すデータの精度を上げる努力をしているため、そのデータを活用して取り組んでいきたい。
- 歯科診療所は高齢化が進み、診療所を廃止する施設も増えてきている。訪問診療は若手歯科医師が行うことが多く、割合をみると実際の診療所数より増えてしまうため、工夫が必要。
→最終目標としては、割合で目標値を定めているが、目標とは別に、需要と供給のバランスを見極めながら対応していく。
- 訪問診療とは別に、気軽に外に診療しに行くことはできないのか。
→各団体において、地域におけるフォーラム等の開催で訪問診療について周知をしているが、現状の法整備では、自由に外部に診療しに行くことは難しい。
- 病院の看護師が訪問看護ステーションに出向し、訪問看護師の活動内容を研修で学びながら実務を行う取り組みを行っており、病院の看護師と訪問看護師の連携を強化したいと考えている。

(2) その他

- 質疑・意見なし